



児童会のあいさつ運動

1月20日～22日、児童会のあいさつ運動が実施されました。ちょうど寒さが厳しかった頃でしたが、早めに登校した児童会役員が、校門や玄関先で「おはようございます」の声掛けをしてくれました。

新型コロナウイルスの感染の心配がなければ、ハイタッチなんかしながら挨拶したら笑顔になれるのにといいながら。それでも、子どもたちの元気な「おはようございます」の音が響いた朝でした。この期間だけでなく、元気なあいさつが習慣となるよう、今後も取り組みを続けていきます。



コロナに負けずに元気に過ごそう！

1月28日に、「新型コロナウイルスの家庭内感染防止について」（甲斐市教育委員会からのお願い）というチラシを配布しました。山梨県に隣接する首都圏の1都3県に緊急事態宣言が出されています。山梨県（甲斐市）でもいつ同じような状況になってもおかしくないといわれています。幸い、新規感染者数もそれほど増えていませんが、病床使用率や療養者数は先週（1月19日）時点ではステージ3相当です。

そこで、甲斐市としての取り組みの一つとして、子どもたちにコロナの感染予防を呼びかけるポスターを作ってもらい、学校のフェンスなどに設置して、地域の人達にも呼び掛けることになりました。

さっそく6年生が標語を考え、その中の4点を大きな文字にして設置することになりました。今回掲示する標語は次の4点です。

- ◇手洗いうがいで コロナに負けない！
- ◇コロナ対策頑張ろう！
- ◇三密さけよう！
- ◇密をさけて 健康な毎日を！
- ◇感染者を減らそう！

ここ数日、山梨県内の新規感染者の数はかなり少なくなっています。だからと言って『もう大丈夫』ではなく、まだまだ気を付けて生活する必要があります。感染防止の努力は、この2年間のインフルエンザの流行がないことも、副産物的に表れています。感染防止を念頭に置いた生活は、もう『普通のこと』と思うのがよいように感じます。

北小花日記

季節は確実に春に向かっていきます。25日午後、春のような日差しの中で校内を1周してみると、北館の裏側にある4本の梅の木の手すべてで花が咲いていました。

マスク越しでは、香りがわかりませんが、先週、あれだけの寒さがあったにもかかわらず、花を咲かせていたのだと思います。少しずつ日が長くなり始めるこの時期。季節を感じさせてくれるのは、自然の中で生きている生物たちなのかもしれません。

※「母親の会」の保延さんが来校され、玄関に生け花をかざってくださいました。新型コロナの流行で、来校を控えていたそうですが、おかげさまで玄関が明るくなった感じがします。学校にお越しの際はご覧ください。

山梨県警広報誌『少年』。月1回の発行される広報誌です。『山梨県警 広報誌』で検索すれば、バックナンバーも読むことができます。以前は、私の知り合い（同じソフトボールチームで共に汗を流した先輩）が執筆を担当していたので、結構楽しみにしていました。

R3年1月号（第418号）に次のような記事があったので、転載させてもらいました。

山梨県警広報誌『少年』第418号より

「GRIT（グリット）」

アメリカの心理学者ダックワース教授がニューヨークの公立中学校の数学教師をしていた際に、成績が優秀な学生の共通した特徴は、頭の良さや生活環境ではないことに気づいた。そこから大学に戻り、「才能」と「努力」の関係について研究を続けた結果、成功へのカギは才能やIQ（知能指数）ではなく、「情熱」と「粘り強さ」、すなわち「やり抜く力」が重要であることを科学的に突きとめた。成功する人に共通する特徴は、この力であると結論づけたのだ。

「やり抜く力」とは、目標に対して興味をもちつづけて、困難や挫折を味わっても、あきらめずにひたむきに努力を続けられる力のことである。英語でGRIT（グリット）。この言葉は4つの頭文字をとって作られている。

- ・Guts（ガッツ）：困難に立ち向かう「闘志」
- ・Resilience（レジリエンス）：「粘り強さ」
- ・Initiative（イニシアチブ）：「自主性」
- ・Tenacity（テナシティ）：最後までやり遂げる「執念」

この力は、生まれ持った特別な能力ではなく、誰でも今から伸ばしていくことができるという。

「興味」「練習」「目的」「希望」

ダックワース教授の著書の中に「やり抜く力」を高める4つの要素が紹介されている。

「興味」：自分のやっていることを心から楽しむ。目標に向かって努力することに喜びや意義を感じている。

「練習」：昨日よりも上手になるように日々の努力を怠らない。

「目的」：自分の仕事は重要だと確信している。他の人々のためにも役立つと思える。

「希望」：困難にぶつかっても、ひたすら自分の道を歩み続ける。

私たちは、活躍している人や成功している人を見ると「あの人は特別な才能がある」と決めつけ、「自分には才能がない」とすぐにあきらめたり、何を成し遂げられるかは努力ではなく、才能で決まると考えたりしてしまう。

その思い込みは間違いと言える。

才能に恵まれた特別な運命のもとに生まれなくても、「情熱」や「粘り強さ」にあふれていれば、成功への道筋を切り開けるといふことだ。

教授はこんな言葉で研究をまとめている。「人は誰でも生まれながらにとてつもない可能性を持っている。その可能性を最大限にいかせるかどうかは、やり抜く力を発揮して、ひたすら地道な努力を積み重ねることにかかっている」と。

「やり抜く力」が強いということは、

- ・一歩ずつでも前に進むこと。
- ・重要な目標に粘り強く取り組むこと。
- ・厳しい練習を毎日、何年間も続けること。
- ・七回転んだら八回起き上がること。

出典：アンジェラ・ダックワース「やり抜く力」ダイヤモンド社（アンダーラインは中村による）

以前紹介した「伸びる子」の条件を思い出しながら読みました。子どもたちを励ます『ネタ』になれば幸いです。

《感染防止の3つの基本 ①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い（山梨県HPより）》